

平成18年度国際学術コミュニケーション委員会
日本資料再利用計画 (Japanese Resources Re-Use Plan)
試行実験 (Feasibility Study) 報告

平成18年5月の国立大学図書館協会理事会において、日米学術情報交流事業の一環として、北米日本図書館資料調整協議会 (NCC) と連携し、図書館に寄贈された重複資料を北米の学術研究機関に提供する、日本資料再利用計画 (Japanese Resources Re-Use Plan) が提案された。また、平成19年1月のNCC会議においてもこの事業を了解されたことをうけ、まずは東京大学で試行実験 (Feasibility Study) を実施することが了承された。

これを受けて、東京大学附属図書館では、今回、総合図書館と柏図書館の重複資料を利用して試行実験を行うこととし、国立大学図書館協会 (JANUL) の英文ホームページに2/4~2/22の間、手順方法、コンセプトマップ、提供資料リスト (900冊) を掲載した。また、NCC議長 (Chair) からはメーリングリストにより、この実験の実施が北米の学術研究機関に通知された。

結果、11大学より応募があり、希望が重複した資料をNCC議長が調整した結果、東京大学附属図書館が提供した書籍の74%に当たる673冊が再利用されることとなった。

この実験結果からは、日米大学図書館間の学術情報交流の進展、海外における日本研究への貢献等の効果が期待できる。

については、今後の展開を考える場合、今回の試行実験においてNCC議長に係った配本調整に費やされた労力と時間の削減、また各機関が負担する送料 (JPTCは1カートンにつき3000円の手数料をとる。さらに東京大学からJPTCへの輸送料を参加機関で配分する) について、配本数の少ない機関に見合う費用であるかなど確認検討する事案がある。

希望機関	総図	柏図	計
University of Virginia (UVA)	147	15	162
Vanderbilt University	56	0	56
Michigan State University (MiS)	13	4	17
University of Minnesota	13	1	14
University of California at Irving	39	2	41
UCLA	103	28	131
Univeristy of Hawaii at Manoa Library	11	6	17
UTexas Austin	87	12	99
University of Manitoba	58	9	67
The Ohio State University	21	42	63
University of Kansas Libraries	6	0	6
	554	119	673

その後 JPTC から、配送所要額は日本国内及び米国向け合わせて 311,680 円を計上している旨の報告があった（なお平成 19 年 5 月 1 日現在、JPTC から米国各大学への配送は準備中のため未完了である）。

また、日米の動向を知ったフランス国立極東学院図書館副館長のブスマール氏と東京大学との間で、平成 19 年 3 月末に意見交換を行った。ブスマール氏の意向としては、9 月にローマで開催の EAJRS（日本資料専門家欧州協会）大会で欧州での実現可能性を検討したいとのことである。

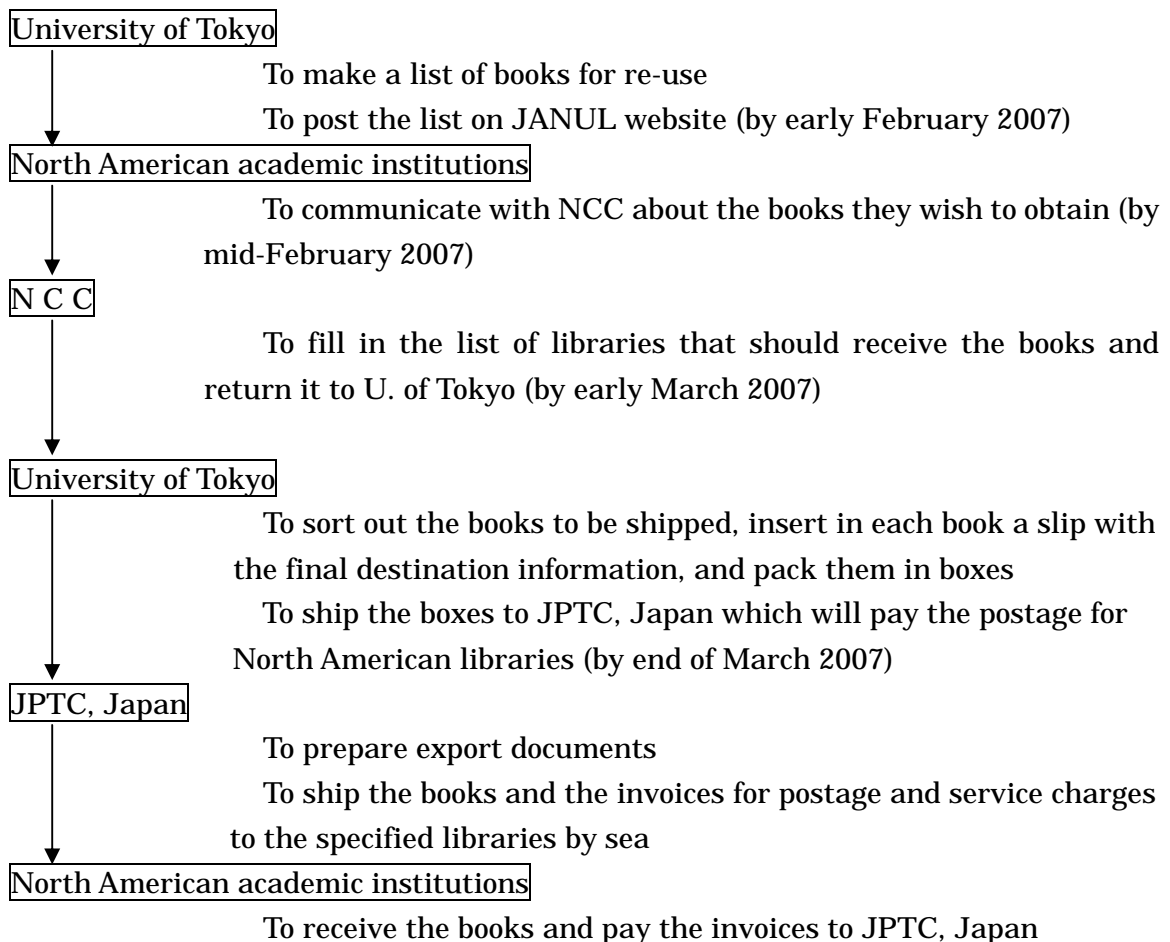
Feasibility Study on the Japanese Resources Re-Use Plan

At Japanese university libraries, many duplicate materials are discarded every year. Among them, many are of academic value and are often difficult to obtain from regular book markets. On the other hand, some Japanese resources remain hard to obtain in North America. Considering this, the Japan Association of National University Libraries (JANUL) has come up with the Japanese Resources Re-Use Plan, through which participating Japanese university libraries will distribute their duplicate research materials for re-use among North American academic institutions.

In the current fiscal year 2006, the University of Tokyo Library will be conducting a feasibility study according to the following procedures on behalf of JANUL, with assistance provided by JPTC. If this feasibility study is found viable, other universities may join in the plan in the future.

The feasibility study will be carried out for the period, December 2006 through March 2007.

< Procedures >



Japanese Resources Re-Use Plan (Feasibility study)

日本資料再利用計画(試行実験)

Purpose: to facilitate the distribution of materials for re-use and to meet the needs for Japanese resources among North American academic institutions

